

## 飛鳥資料館冬期企画展のご紹介

発掘調査速報展

「飛鳥の考古学2006」

平成19年1月16日(火)～2月25日(日)

飛鳥地域では、高松塚古墳やキトラ古墳の調査が多くの人々の関心を集めていますが、近年、飛鳥京跡や石神遺跡などにおいても発掘調査が進み、注目すべき新事実の発見が続いています。

飛鳥京跡の内郭中枢では、巨大な正殿の北でもそれと同規模の建物遺構が発見され、中枢部の建物配置がほぼ確定しました。

石神遺跡では、「観世音経」と記された木簡が出土し、年号のあるものとしては最古のものとして重要な発見となりました。

また、昨年度では石舞台古墳の隣接地や、島庄遺跡、甘櫨丘などの蘇我氏にかかわるとみられる調査がおこなわれ、大きな話題を呼びました。

飛鳥資料館では、こうした最新の発掘調査の内容を広くご紹介するため、このたび、「飛鳥の考古学2006」と題し、平成17年度の飛鳥地域の発掘調査速報展の開催を企画致しました。

本企画展では、当研究所および明日香村教育委員会の成果に加え、橿原考古学研究所、高取町教育委員会の協力の下、飛鳥京跡や観音寺遺跡の発掘成果も交えて、飛鳥地域の貴重な資料を展示いたします。

なお、飛鳥資料館では毎年冬期こうした発掘調査速報展を開催することで、今後も飛鳥地域の発掘調査の最新情報をいち早く公開したいと考えています。  
(飛鳥資料館 清永 洋平)



石神遺跡出土人形